



卷頭言

附属学校教育局次長 烏山由子

「高大連携・人材育成7年プロジェクト」を進めよう

国立大学の法人化を機に、あちこちで高大連携の試みが進んでいる。筑波大学においても、平成15年3月に出された「附帯学校改革推進委員会報告書」で、この課題に関して以下のようまとめている。

「大学が附属学校を活用する実験的・実証的教育研究の一環として、大学が求める学生の資質や能力に照らして、高等学校と大学との接続教育を視野に入れた連携も考慮される。このために、附属高等学校からの推薦入試枠を活用することができるよう、また、大学の学力低下問題について、筑波大学がその実態の解明や改善等による連携して取り組んで行なうことが望まれる。推薦入試枠によって入学した生徒に関して、大学入学後における生活実態や、学力の進展、創造性の発揮などを追跡調査し、学群・学類の教育改善に役立つとともに、その追跡調査結果を附属学校にフィードバックし、改善に役立てていく、このことは、筑波大学と附属学校だけの問題ではなく、日本の教育改革に資するものとなる。」この課題を実現すべく、附属学校教育局では、平成16年度に「高大連携・人材育成7年プロジェクト」を発足させた。このプロジェクトは、高校側にとっては、生徒が自らの適性を自覚し、大学の各分野の教育内容を実際に見聞する機会を得て、目的意識を持つて進学するためのキャリア教育の中心になる。また、大学にとっては、目的意識を持ち、専攻のリーダーの役割を担うる優秀な人材の確保につながる。

また、このプロジェクトに、附属障害児学校（盲・聴・肢体不自由養護学校）が含まれていることも特色の一つである。これらの附属障害児学校には全国から生徒が集まり、優れた大学進学実績を挙げている。一方で、筑波大学は障害学生の受け入れと学習支援において届指の実績を持つ大学である。この両者の連携により、障害のある生徒の大学進学に伴う移行支援プログラムの開発と、障害者のリーダー育成に関する実践研究を展開する意義は極めて大きいと考えられる。

各附属学校に、このプロジェクトに関わる先行実践があるのも、推進の大きな力である。例えば、附属坂戸高校における生物資源学類教員の出張授業、附属小・中・高校と大学教員の「四校研」における教科教育実践研究、附属駒場中・高校におけるスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）プログラムへの大学教員の協力、附属障害児学校高等部生徒の筑波大学訪問と、障害のある大学生との交流実績などがある。さらに平成17年度には、この課題の科研費申請について、全学群長の賛同を頂くことができた。

今後は、これらの実績を整理し、「7年プロジェクト」をさらに推進するとともに、「中高大連携・人材育成10年プロジェクト」をめざしたい。

CONTENTS

■卷頭言

「高大連携・人材育成7年プロジェクト」を進めよう●烏山由子

■特集「海外研修」

海外視察旅行の報告●篠原吉徳……………1

二つの教育研究学校を訪ねて●野口 剛……………2

附属学校教育局・アメリカ海外研修へ参加して

—特別支援教育を中心に—●丹治達義……………2

■研究発表会・研修会

平成17年度筑波大学附属学校研究発表会●石隈利紀……………3

平成17年度春期研修会報告●江口勇治……………3

■ご挨拶

国府台・大塚・筑波からアジアへの発信を●齊藤佐和……………4

新任ご挨拶●中村 徹……………4

ご挨拶●四日市 章……………4

附属桐が丘養護学校に着任して●安藤隆男……………4

■名物先生紹介

附属中学校の名物先生一角田睦男先生一●山口 正……………5

■温故知新

筑波大学附属小学校校史資料室●山下真一……………5

■TOPICS

参議院文教科学委員会、附属盲学校を視察●梅原無石……………5

韓国の学校の施設設備に感心!●吉沢祥子……………6



特集

海外研修

海外視察旅行の報告

附属学校教育局 篠原吉徳

10名の附属学校の教員及び3名の附属学校教育局の指導教員、総勢13名の教員は、平成18年3月26日から4月1日までの7日間、アメリカ合衆国に滞在し、シカゴ大学附属実験学校 (Hyde Park Day School) を含む) の他、ヴァンダービルト大学とコロンビア大学を訪ね、研修のための視察、資料・情報の収集等を行った。

シカゴ大学附属実験学校(以下、実験学校)は、幼稚園(附属学校を含む)、小学校、中学校そして高等学校一貫でエリート教育を行うことにより、現在、その名が広く知られる私立学校である。私たちは、実験学校の幼稚園において、園児の目にはピラミッド、スフィンクス、ミイラなどがミステリアスなものに映り、イマジネーションがかきたてられることに着目して、ミイラの棺を作る、また出した工芸品である「鳥巣」の写真を見て模型を作成する(平面である写真を基に立体像を構成する)などの課題が与えられ、園児たちがこれらの学習過程を取り組んでいた。この話を聞かされた。そして、実際に園児の作業の目を見たりした。実験学校を創立したジョン・デューイは、例えば、布から服を作るなどの活動を通じて、事物についての科学的な知識を得ることができる、人間の歴史の進歩を知ることができます。さらには、複数の子どもが協同して活動に取り組むことができる、と述べているが、開校されて100年以上の時間が経過した今なお、本幼稚園では、彼の、このような所に基づき、知識注入教育を排出した、教育実践が行われている。

デューイの足跡(シカゴ大学教授を辞任して、コロンビア大学に異動)を辿るようにして、私たちは、3月31日には、コロンビア大学教育大学院を訪れた。大学院として、教員養成を行っていることについての説明を受けたが、教員養成設置の道を探る者にとっては、その説明が示唆に富むものであった。また、パッシュ政権が今力を推し進める教育政策「No Child Left Behind」(一人の落ちこぼれも出さない)に沿い、ニューヨーク市に研究協力するかたちで立ち上げられた「Reading and Writing Project」の概要が紹介されたが、日本の今日的な教育課題を解くことに貢献するヒントが得られたように感じられた。さらに、大学の好意で、デューイの教育論をめぐって、3名の大学院生との意見交換の機会

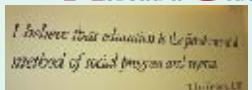
が設けられ、国際交流ができたことは、意義深いことであった。

ヴァンダービルト

ルト大学は、US News & World Reportが2006年3月に発表した教育系一特殊教育部門—大学院ランキングにおいて、第1位に選ばれている。ヴァンダービルト大学を訪問(大学の所在地は、テネシー州の州都、ナッシュビル)して、US News & World Reportのランクインが、十分に信頼の足るものであることを実感させられた。最新の、ハイテクの機器が取り揃えられ、施設設備が整えられていることに驚かされたが、学界をリードする研究者が参集し、最前線で活発に研究活動に取り組んでいることを知らされ、圧倒させられる思いであった。研究活動もさることながら、ヴァンダービルト大学には、Susan Gray Schoolという附属実験学校(就学前の障害のある児童が対象)があり、障害児のための保育及び教育も熱心に行われている。これらの他に、大学は、社会貢献として、ナッシュビル市府・ダヴィッドソン郡政府(Metropolitan Government of Nashville & Davidson County)と連携し、障害のある子どもたち、その保護者や家族に対する直接的な支援として、あるいは市内の学校並びに学校の教職員へのサポートとして、大学の、人の・物的・精神的資源を惜しみなく提供している。ヴァンダービルト大学を訪問し、わが国の特別支援教育の実践における、筑波大学の役割に関して implication が得られ、大きな収穫があったと確信している。



●日付(2008年)	訪問都市	訪問場所	内 容
3/27(Mon)	シカゴ	•University of Chicago Laboratory School •Hyde Park Day School	シカゴ大学実験校のカリキュラム説明及び授業見学 LD児教育の説明及び授業見学
3/28(Tue)	ナッシュビル	Vanderbilt Children Hospital	病院の説明及び見学
3/29(Wed)	ナッシュビル	•Vanderbilt Kennedy Center for Research on Human Development •Susan Gray School •Bill Wilkerson Center for Otolaryngology and Communication Sciences •Vanderbilt Center for Child Development	センターの活動及び自閉症児・者プログラムの説明 学校説明及び授業見学 施設見学 盲導教育の説明
3/31(Fri)	ニューヨーク	Columbia University Teachers College	大学院一小学校間の連携の説明及び院生との討論



I believe that education is the most important member of social progress and moral development.